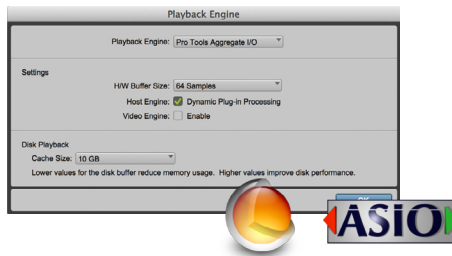


# Pro Tools Software バージョン進化の過程を確認 !!

## Pro Tools 9

👍 CoreAudio/ASIO 対応

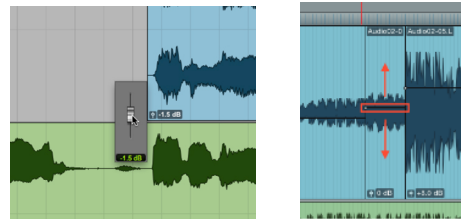


LE が廃止され ProTools 9 ではお気に入りの CoreAudio/ASIO 対応オーディオ I/F も利用できるようになりました。従来の Mbox や 002,003 などのインターフェイスの制約がなくなり、通常版も iLok にてライセンスの管理がされるようになり、より幅広いユーザーに Pro Tools の裾野を広げたバージョンアップに。

- Audio Engine の刷新
- 可変パン・デプス
- EuCon 対応
- トラック数の拡張
- Video 機能の追加
- 自動遅延補正機能の Native Pro Tools への追加
- AAF/OMF の標準サポート
- MP3 書出しの標準サポート

## Pro Tools 10

👍 Clip Gain が追加

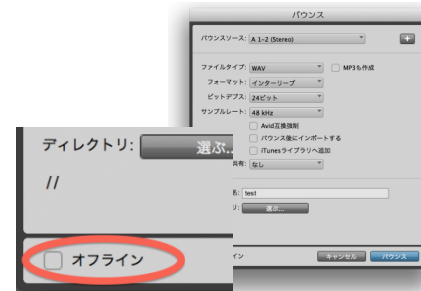


従来リージョンと呼ばれていたファイルがクリップとして表記が刷新され、クリップ単位でのゲイン差を調整することができるようになりました。オートメーションと併用することで、より複雑なレベル管理が容易となり、作業効率が非常に高くなり、また、コンプレッサーやリミッターへ送る前のレベルトリートメントとして、またボーカルの微妙なニュアンスや息遣いをコントロールするアプローチも容易です。

- ディスクキャッシュ機能の追加 (HD)
- AAX Plug-in の登場 (本バージョンでは AAX32bit 対応)
- Real Time Fade
- system5 からの移植アルゴリズム "Channel Strip" Plugin の追加
- "Down Mix" Plugin の追加
- Satellite Link の拡張
- 24 時間超のセッションファイルが生成可能
- セッションフォーマットが .ptx に

## Pro Tools 11

👍 オフライン・バウンス



待望のオフラインバウンスが遂に追加され、最大で実時間～150倍にて高速バウンス処理が可能となりました。長尺のミックスや、カラオケテイクなど、また複数のテイクが求められるミックス、その日の作業を確認するラフミックスなど、バウンス割いていたあらゆる時間をコンパクトに効率化、作業スピードを飛躍的に上昇させる画期的なアップデート。

- ダイナミックプロセッシング
- 低レイテンシーインプットモニタリング
- 64bit-AAX プラグインの対応
- アドバンスメーターオプション
- ゲインリダクション表示
- センドにメーター追加
- プラグインにメーター追加
- 内部 32bit-Floating 処理
- 32bit Floating File の取扱
- Rec 中のオートメーション書込
- ワークスペースの強化、検索速度向上

## Pro Tools 12

👍 最大25種類のAVIDプラグインが無償化



従来有償であった Pro Compressor を始めとする AVID Pro Plug-In シリーズや Revive/Reverb One など 25 種類の AVID プラグインが HD 版へ無償追加、Native 版へは 17 種類の追加に。

- Native 版の機能強化
  - > 128 Audio Tracks
  - > 512 Instrument Tracks
  - > Input Monitor
  - > AFL / PFL Solo Mode
  - > Copy to Send 機能
  - > VCA Master Fader
  - > RAM Cache
  - > Advanced Metering (全種類 & ゲインリダクション)
- I/O 設定の改良、モニターパスが登場  
I/O 設定の改良において、セッションをまたいだ際に起こるアサインの変更にもモニター機能の追加により素早く音を再生可能に。
- HD Native で Heat が使用可能  
HDTDMやHDXにて実績あるトーンコントロール「Heat」が HD Native ユーザーも使用可能に、ミックスのトーンのニュアンスの追い込みが容易となりました。